女百人一句

お編

女百人一句前編序

和歌に女百人一首てふものしあれど
それにならひあるべきを俳諧にいまだ
その聞へなきをなげきてにはかにここをかりと
海棠亭久婦るぬしが句集よりえらひ選ひ

つゆ女

跡見短大図書館蔵書

ゆゑに是をのせ花ハ彼ちらせてかく
自らにも此數あまりぬる残まつその
數をこのまうとして様ふちりをとめんとえ
つねる折も其このみ抱ぬの身やつ
この作を宇形して此ようしを仕集のは
所にもみせんる残の物をまるゆゑやここそ

一首しるしをさらぬ季十あまり七
ことしの歌をいとたやさときやうする礼
此ともて作をはあやまりなくんに歌
としのひろハ稀なるひさまそそ誇ろ
になをやめ乃ひろうせひ出来るますから
さまハ皆ろく此残かくゑのく仰ぐるか

専めてふ紀世乃ためしあるへく且は
この編者ハすしへを好かしこ紀を姫
さるはてらハ乃そこにとやさしく花ぬめ
乃姿をも形ハへきさるれえ梓に
ちりをめ記ろく世に志免し永く世
所のこてんをたに世のしへを志

のふ乃ミ形の人のさきとて我よきに
字まり自他のへてて形ミき道
をわくのさへ人に志てきん記とり
たそやめにかきろへのはと至深み
つねなし如ろくのなしめ秋手字
志留真よのしをかんはし事はおそり姫

女百人一句

万木や千草に
志ぬ花の春　朱宮　玉

啼にさへまちて
いつ別寝覚かな　伊勢　光貞妻

笋乃さや嬉し
ますり秋の数遣りに
尼
芳樹

かゝかん髯乃輪や
ねまりまゐる犬の争
河内小野氏
見佃母

大ひなるかゝれと
杭て見鞍馬炭
大佛住
清水氏母

花乃兄や仰て
きとの奔走子
肥前今田住神尾氏
正利妻

朝よりやま吹
夕風ふのむれへの香
伏見住
正房妻

兼続なる所まゐり
秋乃絵ぶ揖り
起しめく扇骨
江戸住神田氏
貞宣妻

よる半ハおもかし宇りしわすの声

河内又南村住 玄了妻

あつさしも今宵のかきり月見哉

堺住 保寿妻

告まちる風より扇はなしや秋近し

伏見住 燕松女

庭に散て下萌となりや上臈も

和州八木氏 光清妻

きぬ粉やくちひるさしく花の春

姫路住村松氏 十二才 辻

人こゝろうつしぬ月まさぬ吉書のね

山城 貞之妻

楊貴妃乃ゆかりや
もまはくころ

和州今井住
正盛妻

娘ゝ風ハ何紀
料よや花ならめ

同 八木氏
宗通妻

なく古濱乃はた
吹れぬ筆つもり

姫路 幸田氏
正全息女

わか菜ぬ雪まや
おりまきに月は寫

名古屋
友交妻

萩ハ都りしほり
伊勢乃濱荻

伊勢
是哉妻

月乃にわて
なりにけり秋の月

妙田尼

炊服の垢ハ
拾とすや水せん花
名古屋　隠

あら南れ色を
見まるやりみち笠
京　六歳女

秋乃夜のいろは
丸わきを書て抜つる
京嶋原 妓女　八千世

雲ハ海駒るゝ
乃ち浦ゝ枕哉
江戸吉原 妓女　高尾

雛瓜をぬまかい
よ命乃ちきりかれ
八朔妻

咲てまて我恋わまる
梅さくらきくの花
巻江妻

縫ひかけし絲ハいたづらや花の針　千里氏　心松妻

衣着や招く手まて大ゆ母か雛蓬餅　松光妻

水盞ハ酒にならすも花見かな　大坂　不必妹

あそひたる花にこゝろや月と花　範弘妻

東山やいさまハ霞も清き気条　大阪　亘休母

井戸の水ハともしく汲ぬ川の氷　仝　茂宣妻

冬の月の松原のしまやむれ海 大阪 伯貞妻

爪先ゑりつんけさいつやゐの色 全 亘休妹

かゝらまう紙笠や杉森青山樹 全 不三妻

いけし床の卓や多の義花乃主 全 宜居妻

別まてやゆゑんりとて松もよいお稀逃云海 全遊女 夕忠

丁子のやくかゝる扇のかおりかな 伏見人志錺氏 家

まはりくる半紙とりまはす恵方かな　さ以

こちつきやわ布さらし夏きもの　なり

佛名や鳴る泪とともにちる花　重

いなつまや通る月夜の酒宴哉　堺　拙女

すみれ草や風ちらしちりしく庵の庭　小倉女

さい来し山より月の出て川ちかみ　大坂女

家ふくも丸くなるや鏡もち　三州吉田住小野氏　愚侍妻

作りにてハ手乃風呂に乾法華寺　姫路住　和足

あらたまるはるの気乃着毛節小袖　松坂　とん

恋の海へまくりよの筆の始文　江都住宣為婦　なか川

同じときも念仏したまへ法然忌　江都　孝

盃乃かけり乃つるれ汲ミ流ケうぬ　名古屋住　清毅母

門松に高き名に遊べ千代の鶴　安藤　つる

若みどり立かさなりや老は松　廣信任足助氏　まん

七宵乃影は果報や月の志ら嵐　尼ヶ崎　まん

折ふしに穏れば黒川けさうみ　堺　宗賢母

きくや菊折れば露のこぼれん蓮　備中　清左妻

駒やかくて生きてあるやましてぞ　安田氏　はる

おものいで見る秋や [illegible]月のち
村主女

田ハ[illegible]見るは[illegible] 露の[illegible]
京住 呉川氏女

つかりよいはなれ [illegible]絞やいせ桜
淀樋口氏 志ゆ女

草の戸の[illegible]住 なれや[illegible]
備中 元定妻

[illegible]ゆゑに[illegible]や松の藤
大坂遊女 薫

[illegible]や[illegible]の [illegible]花[illegible]
伊勢松尾氏 新治妻

祝ふ代をくりかへしけれかのや松乃蝶　伊予　了耆妻

風ふけはまり子つかれ児となり　伊勢　巻

旅人の志ありて来れ雪ちりけれ　松坂　紫よ

代々栄て左義長久しよ松と竹　大坂　雨む

清海無の静けさ猫ハとらう毛乃形　仝　吉

一八の花もえてろ名新地に　江戸　好

うかれ来ハまろや紀多川や花の春

池田 佐伯氏妻

ゆきま雨女しと志の〻ハ舟のこうけり哉

伏見 清篤妻

三ツめのゝかくや筆墨紙の音

木村氏 信

徳利ミやあれハ桜まて霞酒

尼 恥布

足の消し花折浪速のこての家

元貞妻

世ハうき紀乃よらうつゝしかれ毛

大坂久勝妹 長

花れかほもさそて、刃ものや鏡草　澁冨氏女

京
一やの酒祝へ蓬莱三箇日　良富母

子ある方へ正月小袖を送るとて
きるふ小袖よ我さかえけの勝り行
因州　玄旦母

前栽小松を
こゑ永く庭や五葉をかさね松
河内　正氏妻

閑しかりまさるや宇治の山はなて　常平妻

こゝのかほりまくしやすゝ伊勢桜　伴貞女

天ハ父地なり　ゑくちてや児桜　正栄妻

覚子ふかくされ寺
ちりそうきや山ふところの児さくら　揺　頼重妻

娘の小唄をきゝふときまて
秘む語も葉にもれてや姥桜　仝　正次女

小きざみつゝ縫にやかけ守　辛崎　秀子女

天人の羽衣ハ多川のかすみ　備州　時雨舟

残る霞や柳の髪のあつる絲　河内　かん

えきも籾楷や庭に桐の一葉

樋口氏 尼

朝顔はあれ山桝乃店先の

亀

なのりそかくれ嘴うや時鳥

春光女

紅梅の深雪に山のかすみ哉

生駒母 久

霜枯れ雉鶴とは花を流れや起え

紀州 義重母

大晦日の雪

雪花は春よりも冬の降ひろか

大塚光蔓女 六

姿乃次行つめるハいつもゆき女
京　よし

花れゑんの窓に祢つ紙志のひ册
河内冬妻

西風は池のうつらふ美人草
京　政光母

車坂より刈て来る鳥羽や京さへも
京　かち

中の月や尾花に波のおもかげ尓揺
大和　光性尼

末期の
黄色な佛とお浮世ちゝ那へし
竹田氏　菖蒲女

124033

江戸にて辞世

古ハ穢土今は浄土へゆき佛　陳甫女

粟の穂や弟え数ならぬ女郎花　丹後栢原　まて乙